平成２６年度第５回新潟市清掃審議会会議概要

<table>
<tr><td>開催日時</td><td colspan="2">平成２６年９月４日（木）午後２時００分～午後３時１５分</td></tr>
<tr><td>会　　場</td><td colspan="2">新潟市役所本館６階　第４委員会室</td></tr>
<tr><td rowspan="2">出 席 者</td><td>出席委員</td><td>松原会長、山賀副会長、柴田委員、伊井委員、飯島委員、
石井委員、髙橋善輝委員、中澤委員、八子委員
計９名
（欠席　菊野委員、髙橋若菜委員、渡邉委員、窪田委員
菅谷委員、高橋まゆみ委員）</td></tr>
<tr><td>事務局</td><td>環境部長、廃棄物政策課長、廃棄物対策課長、
廃棄物施設課長　ほか</td></tr>
<tr><td>主な議事</td><td colspan="2">１　開会
２　議題
（１）し尿・浄化槽汚泥収集の今後のあり方について（諮問）
（２）し尿・浄化槽汚泥収集の今後のあり方について（審議）
ア　し尿・浄化槽汚泥収集業者への支援状況
イ　現状についての業者からの意見聴取
３　連絡事項
４　閉会</td></tr>
<tr><td>主な議題</td><td colspan="2">＜審議の進め方＞
それぞれの議題について資料に基づき事務局が説明を行った後、委員からの意見・質問を受け審議を進めた。</td></tr>
</table>

＜議題＞（主な質問・意見等）

（１）し尿・浄化槽汚泥収集の今後のあり方について（諮問）

し尿・浄化槽汚泥収集の今後のあり方について、諮問を行った。

（２）し尿・浄化槽汚泥収集の今後のあり方について（審議）

ア　し尿・浄化槽汚泥収集業者への支援状況

○ 新潟市のバキューム車の台数について、参考資料の１枚目では９８台、参考資料の２枚目では８３台、資料１の新潟市における支援体制では９４台となっている。正しいのは何台か。

市～　参考資料の１枚目の９８台は平成２４年度末の台数であり、浜松市と比較するために同時期のものを示した。参考資料の２枚目では、し尿を取扱いできる車両として８３台となっている。ただし、専用車ではないので、現状はし尿と浄化槽汚泥を収集している。資料１の新潟市の支援体制で記載している９４台は、平成２６年度の車両台数である。

○ 資料２で横浜市、岡山市及び北九州市が網掛けになっている理由はなにか。また、資料３で県内の状況が記載されているが、長岡市はどのような状況か。

市～　資料２で網掛けは合理化事業計画を策定している都市である。横浜市は平成２年、岡山市は平成１６年、北九州市は昭和６３年に策定している。横浜市では業者から収集運搬車両を買い上げ、収集業務を市の直営とした。北九州市では、転廃業にあたって補助金を交付した。長岡市、上越市は計画を策定していない。両市とも、ごみ収集とし尿収集を兼ねている業者が多い。ごみ収集で補いながら、し尿収集業務をしているため、支援は行っていない。

○ 第３回審議会の資料３では、し尿収集量などについて平成１７年度を１００とし増減を示している。平成１７年度は合併後間もない時期であったが、平成１７年度を比較の基準とした理由はなにか。

市～　平成１７年３月２１日に合併したことにより、平成１７年度のデータから把握できており、合併時点との比較ができることから数字を出している。

○ 参考資料で新潟市と浜松市を比較しているが、比較結果としては新潟市の方が効率的と言えるのか。

市～　一概には言えない。浜松市は１日当りの搬入回数が多い。こまめに収集しながら搬入している。地域の地形などの影響もあるかと思う。新潟市のように平地であれば収集運搬が容易であるが、山間部では回収をするにしても距離や時間がかかる場合がある。

○　新潟市は効率が良いのではないか。ただし、下水道が普及することで、し尿・浄化槽汚泥量が減少することになる。新潟市では合理化事業計画を策定しないのか。

市～　合理化事業計画を策定することも検討の一つとして考えている。審議会のご意見をお聞きしたい。

○　ごみ収集運搬業務と、し尿・浄化槽汚泥収集運搬業務を兼ねている業者であれば、ごみ収集業務にシフトできるが、兼ねていない場合はし尿・浄化槽汚泥が減ることで効率が悪くなる。長岡市では業者がごみ収集業務を兼ねている。新潟市では支援のための合理化計画を作るべきではないか。

市～　審議会でご審議いただきたい。

○　参考資料では新潟市と浜松市の業者数では、浜松市の方が多い。業者数が減れば効率が良くなるかもしれないが、経費面ではどうか。

市～　一業者の車保有台数が一台の場合、効率面では良いかもしれないが、収集がない場合は時間が空いてしまう。この時間を補てんしていかなければならない。作業人員が増えて安定してやっていく余裕が必要ではないか。小規模業者よりも大規模業者がいいということになる。

○　第３回審議会の資料では、新潟市は浜松市よりも下水道普及率が高い。今後の少子高齢化の流れでは、統廃合が進むのではないか。

○　資料１の転換先業務一覧表では、転換先業務に関する金額が年々増えている。増えている業務については、どのような対応をしているのか。

市～　基本的には新たに発生した業務をお願いしている。平成２２年度は、新潟市が直営で行っていた業務を民間委託するにあたり、転換先業務とした。また、これまで入札していた業務の一部についても転換先業務とした。

（３）し尿・浄化槽汚泥収集の今後のあり方について（審議）

イ　現状についての業者からの意見聴取

○　豊栄地区の業者の人材派遣の内容はどのような業務か。

業者～　県の流域下水道処理施設で、２４時間体制の運転管理を行っている。

○　運転管理業務に必要な人数はどれくらいか。

業者～　４カ所の流域下水道処理施設の管理を行っており、１４名である。

	○　運転管理業務を行っている人は、し尿・浄化槽の清掃業務に関係のあった人か、それとも新たに雇用された人であるのか。 業者～　年々下水道整備が進み、浄化槽保守の件数がなくなってきたため、浄化槽維持管理業務の経験がある社員を運転管理業務に派遣した。水質検査などの専門性があることから、業務を担っている。 ○　豊栄地区の下水道普及率はどのくらいか。 業者～　平成１７年度は４５．１％でしたが、平成２５年度で６４．３％となり、１９．２ポイント上昇している。 ○　事業収入割合で、「その他」が９６％となっているが、どのような業務内容か。 業者～　一般廃棄物及び産業廃棄物の収集運搬を行っている。 ○　業者の意見を聞き、分かりやすかった。下水道の普及により、今後のし尿・浄化槽汚泥収集量は減っていく。しかし、まったく業務がなくなるわけではないので効率が落ちていく。行政でしっかりサポートしていくべきではないか。 業者～　厳しい経済状況でがんばっているが、従業員の雇用が大変である。代替業務を提供してもらいたい。 業者～　収集はなくなる仕事ではなく、市民サービスという仕事である。市民サービスを安定的に行うためにも支援をお願いしたい。 業者～　新しい住宅地では当初から下水道が普及しているが、市街地の一部では、し尿収集が残っている現状がある。 市～　小規模事業者が多く経営が厳しい状況である。減車することにより人が減りその分の雇用確保が課題。現在は減少量に応じて転換先業務を提供しているが、転換先業務も永遠に続くわけではない。市民の理解を得るとともに、市民サービスを維持していくことが大切。審議会のご意見を尊重し、検討を進めていきたい。 ○　最近は災害が多い。下水道が普及している地域が危ないと聞く。浄化槽はそれぞれで処理できるが、下水道は管などが破損すると、処理できなくなるため、災害発生時に困ると聞く。 市～　法律的な規定はない。災害が発生し、仮設トイレを設置した場合は毎日の収集が必要である。下水道普及率が高く、車両を有していない地域には、全国から支援に行くことになる。東日本大震災の際も、市内の業者から４台派遣してもらい収集を行った。 ○　し尿・浄化槽収集の専門家がいなければならない。車両の統廃合がうまく進んでいけばよい。
傍聴者	１０名